

問題【国語】

以下の文は、兼好法師の「徒然草」の一節で「神無月」の由来について書いたものです。この中で兼好法師は神無月の由来についてどのように述べているか答えなさい。

十月を神無月と言ひて、神事に憚るべきよしは、記したる物なし。本文も見えず。但し、当月、諸社の祭なき故に、この名あるか。

この月、方の神達、太神宮に集り給ふなど言ふ説あれども、その本説なし。さる事ならば、伊勢には殊に祭月とすべきに、その例もなし。十月、諸社の行幸、その例も多し。但し、多くは不吉の例なり。

豆知識 雑学コラム

兼好法師の推理ミス

旧暦の10月のことを神無月と言います。この由来について、一般的には、一年に一度、10月に神様が出雲に集まって話し合いをするため、日本中の神社から神様がいなくなるからだと言われています。しかし、兼好法師はこの説には否定的です。では、兼好法師はどのように考えているのか見ていきましょう。

まず、上の文を訳してみると「10月が神無月だからと言って、神事（祭り）をすることはいけないという決まりはない。しかし、10月に神社での祭りが無いことからこういう言い方になったのだろうか」となります。つまり、兼好法師は神無月だから祭りをしないのではなく、祭りをしないから神無月なのだと考えていることが分かります。さらに、兼好法師の考察は続き、「10月に神様が神宮に集まるというが、神宮のある伊勢でもこの月に祭りをしていない」と書いています。まさに名探偵ばりの名推理ですね。

しかし、勘のいい方であれば、兼好法師の推理の間違いに気づくと思います。それは、神様が集まるのは伊勢神宮のある伊勢ではなく、出雲大社のある出雲だということです。実際、出雲地方では10月のことを「神在月」と呼び、全国から来た神様をもてなす祭りの「神在祭」という祭りがおこなわれています。では、なぜ、兼好法師はこんな初歩的な推理ミスをしてしまったのでしょうか。

兼好法師の家は代々神主の家系であったため、兼好法師が神様の集まる所を知らなかったという可能性はとても低そうです。一方で、この時代に神様が集まる所が出雲でなく、伊勢と言われていたという可能性も、これを裏付ける確かな資料がないようです。

名探偵兼好法師の推理ミスの原因は、迷宮入りしてしまっているんですね。

【解答】

神無月とは、10月に神様が集まらないうちの月のことである。